

インターナショナル新書

『グローバル資本主義の終わりと ガンディーの経済学』

森永卓郎（経済アナリスト）

定価：本体 800 円＋税
体裁：新書判／192 ページ
発行：集英社インターナショナル（発売：集英社）
ISBN：978-4-7976-8058-4



これから我々が標榜するのは、
人と地球を救う経済学だ。

8月7日(金)発売！

大型で猛烈な台風が次々と日本を襲う最大の理由は地球温暖化で海面温度が上昇しているから。温暖化対策は待ったなしだ。国連サミットのSDGsの目標は格差をなくし地球を守ることだが、世界はこの理念とは真逆の方向に進んでいる。そこに新型コロナウイルスのパンデミックが追い打ちをかけ、グローバル資本主義の限界が露呈した。

これから世界を救うのはガンディーの経済学だ。それは環境問題に加え、貧困や格差もなくす「隣人を助ける」原理。著者は、この「隣人の原理」を働かせ、いま日本で実現可能な具体策と人間らしい新たなライフスタイルを提案する。



森永 卓郎（もりなが たくろう）

経済アナリスト、獨協大学経済学部教授。1957年、東京都生まれ。東京大学経済学部卒業。日本専売公社、経済企画庁、UFJ 総合研究所などを経て現職。執筆のほか、テレビやラジオ、講演などでも活躍。著書に『年収 300 万円時代を生き抜く経済学』（光文社）、『なぜ日本だけが成長できないのか』『消費税は下げられる！』（ともに角川新書）など多数。

異常気象 パンデミック 経済危機 貧困・格差

行きつく先は破壊的な事態が生じるハードランディング

——本文より——

ガンディーは貧困や格差をなくすために、消費や投資を通じて、「近くの人を助ける」ことから取り組もうと言ったのだ。近所の人を作った農産物を食べ、近所の人を作った服を着て、近所の人建てた家に住む。そうすれば、その地域に雇用が生まれ、地域経済が回り出す。それは、利他主義を考えるとときの明確な基準だ。

——内容のポイント——

- いま世界はSDGs（持続可能な開発目標）の理念とは真逆の方向に進んでいる。
- 相対的貧困率の国際比較で日本はアメリカと並ぶ格差大国である。
- 超富裕層は成果を独占するだけでなく庶民の懐にまで食い込んで所得を増やしている。
- グローバル資本主義がもたらした新型コロナウイルスがバブル崩壊の引き金を引いた。
- ガンディーは消費や投資を通じて「近くの人を助ける」ことから取り組もうとした。
- ガンディーの「隣人の原理」を働かせて、日本で実現可能な具体策を分野ごとに詳述。
- 人間らしい暮らしと地球環境を守る新しいライフスタイルを提案。

——目次より——

- 1章 壊れ続ける地球
- 2章 壊れ続ける庶民の暮らし
- 3章 原因は資本主義
- 4章 ハードランディングは避けられない
- 5章 人と地球を救うガンディーの経済学
- 6章 新しいライフスタイル
- 7章 MMT とベーシックインカム



糸車をまわすガンディー。

※ぜひ貴媒体にてご紹介をご検討いただけますと幸いです。

書影、取材等、下記までお問い合わせください。

【本書のお問い合わせ先】

集英社インターナショナル

電話 03-5211-2632 公式サイト <https://www.shueisha-int.co.jp/>